

# 床面の頑固な汚れ退治 (油汚れ編)

東日本塗料株式会社  
塗り床材 メールマガジン

# 床の油汚れを除去する方法について

- ・床の油汚れを除去する方法は、多岐にわたります。
- ・当社としては、洗剤(フロンオイルクリーナーSP)による洗浄を推奨しています。条件によっては、機械研磨やシンナーを使用した脱脂も可能です。
- ・これらの方法には、メリット・デメリットがある為、現場の状況により選択する必要があります。

No.	方法	大きい面積に適している	特殊な機械が不要	工期が短い	油の種類・量による洗浄効果	粉塵が生じない	廃液が生じない	臭気が少ない	下地による作業の有無
①	フロンオイルクリーナー-SPによる洗浄(ポリッシャー)	○	×	×	○	○	×	○	○
	フロンオイルクリーナー-SPによる洗浄(デッキブラシ)	×	○	×	○	○	×	○	○
その他①	機械研磨※	○	×	○	△	×	○	○	○
その他②	シンナーを使用した脱脂※	△	○	○	×	○	×	×	×

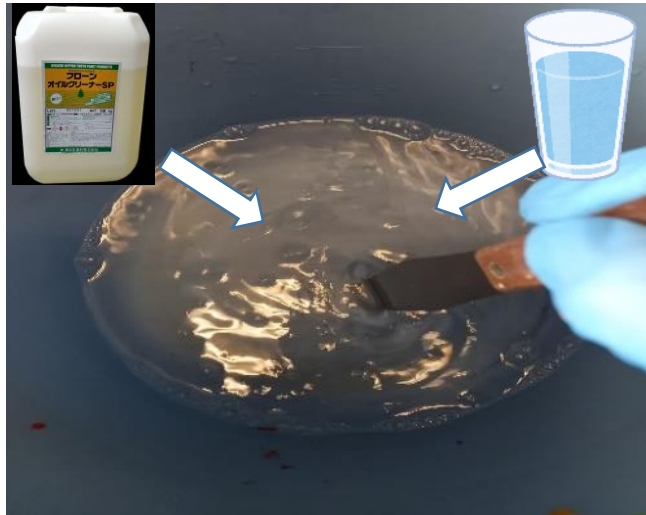
※油の種類・量、下地の状況によっては使用できませんので、各営業所にお問い合わせ下さい。

# 床の油汚れを除去する方法 ① フロンオイルクリーナーSPの使い方



**(重要)作業前に壁や役物等の養生を行います。  
2回以上の洗浄が必要です。**

① 油泥を皮スキ等で除去します。



② **バケツ等の容器を個別に用意し、水とフロンオイルクリーナーSPを容器に投入し、ヘラ等で均一に混ぜます。**

○ 油汚れがひどい場合⇒水で10倍希釈

○ 床の表面に油じみがある場合⇒水で50倍希釈

**※油汚れがひどい場合や動物性の油汚れの場合には、湯水にてフロンオイルクリーナーを希釈する事を推奨致します。**

**(注)酸性物質とは、絶対に混合しない。**

# 床の油汚れを除去する方法 ① フローンオイルクリーナーSPの使い方



- ③ 希釈したフローンオイルクリーナーSPをモップに含ませ、床面に塗り広げます。



- ④ 5分間放置します。

# 床の油汚れを除去する方法 ① フローンオイルクリーナーSPの使い方



- ⑤ ポリッシャー又はデッキブラシ等で洗浄します。

(注) ポリッシャーを使用する際には、  
水を使用する為、電源のON・  
OFF時等の感電に注意しましょう。





# 床の油汚れを除去する方法 ① フローンオイルクリーナーSPの使い方



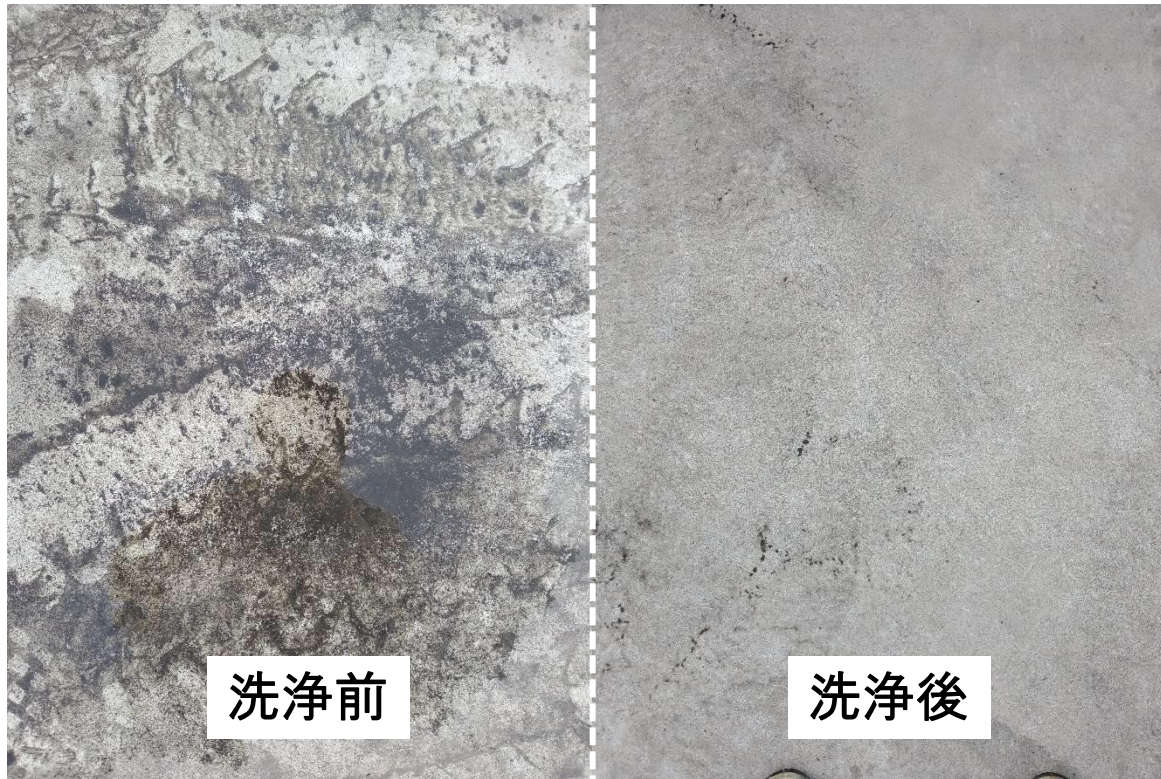
⑥ 汚水油泥はスクイージーで取り除きます。



⑦ **湯水**又は水で洗浄し、2日以上※乾燥させます。  
※室内が密閉していると空気の通り道が無くなり、乾燥が遅くなりますので、送風機等を設置する事を推奨致します。  
**(注) 洗浄により、生じた廃液を処理する場合は、建物を管理している方へ相談して下さい。**



# 頑固な油汚れも フロンオイルクリーナーSPで ごっそり落とせます！



(注) 下地の状況で洗浄後の仕上がりが変わります。



# 床の油汚れを除去する方法 その他①

## 機械研磨について



**(重要)作業前に壁や役物等の養生を行います。**

① 油の溜りをスクイージーで集め、ウエスで拭き取ります。



② 研削機で研磨し、研磨粉を掃除機で除去します。

**(注)コンクリート内部に染み込んだ油は、時間の経過により浮き上がってくる可能性があります。  
研磨、清掃終了後にフロン油面用プライマー又はフロン水系油面用プライマーを塗装する必要があります。**

※油の種類、下地の状況によっては使用できませんので、各営業所にお問い合わせ下さい。



## 床の油汚れを除去する方法 その他② シンナーを使用した脱脂について



**(重要)作業前に壁や物等の養生を行います。  
2回以上の洗浄が必要です。**

- ① シンナーを染み込ませたウエスで脱脂を行います。

※油の種類、下地の状況によっては使用できませんので、各営業所にお問い合わせ下さい。

# プライマーについて

- ・油汚れを除去する工程が終了後、プライマーを塗装する工程になります。
- ・当社は、2種類のプライマーを取り揃えていますので、現場の状況により選択する必要があります。

名称	フロン水系油面用プライマー	フロン油面用プライマー
写真		
おすすめ の現場	臭気を気にする現場 下地が水性塗料の現場	臭気を気にしない現場 役物が多く、作業に時間がかかる現場
臭気	低臭	溶剤塗料特有の臭気がある
工程数	1回塗り	2回塗り
成分	4成分	3成分
可使時間	10分(23℃)	40分(23℃)

# 施工風景 (プライマー～トップコートの塗装)

